

登録簿(鳥獣保護管理調査コーディネーター)

登録番号	R16001
(ふりがな) 氏名	いちかわ あきお 市川 哲生
連絡先	名称 株式会社BO-GA
	役職 取締役
専門分野	鳥獣保護管理調査コーディネーター
専門とする鳥獣	<input checked="" type="checkbox"/> イノシシ <input checked="" type="checkbox"/> ニホンジカ <input checked="" type="checkbox"/> ツキノワグマ <input type="checkbox"/> ヒグマ <input checked="" type="checkbox"/> サル <input checked="" type="checkbox"/> カモシカ <input type="checkbox"/> カワウ <input checked="" type="checkbox"/> 外来種 (アライグマ) <input type="checkbox"/> その他 ()
主な活動地域	<input type="checkbox"/> 北海道 <input type="checkbox"/> 東北 <input checked="" type="checkbox"/> 関東 <input checked="" type="checkbox"/> 北陸 <input checked="" type="checkbox"/> 中部 <input checked="" type="checkbox"/> 近畿 <input checked="" type="checkbox"/> 中国 <input checked="" type="checkbox"/> 四国 <input checked="" type="checkbox"/> 九州 <input type="checkbox"/> 沖縄
鳥獣保護管理活動の経歴	<p>長野県を中心として、中部地方、北陸地方等において中～大型野生動物の各種調査を計画・調査・管理し、鳥獣保護管理の方策を提案してきた。</p> <p>【主な業務内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定鳥獣保護管理計画策定のための基礎調査 ・農林業被害・生活環境被害対策のための基礎調査 ・鳥獣被害防除計画立案 ・鳥獣被害対策マニュアル作成

○登録者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailに関わる情報については、利用者が利用申請書を運営事務局へ提出した場合に、当該利用者に関し情報の提供をします。

鳥獣保護管理調査コーディネーター

市川 哲生

株式会社BO-GA

対象鳥獣

二ホンジカ

活動地域

関西地域

事業内容

野生鳥獣対策業務（事業主体：関西広域連合）

事業の背景

試行錯誤が続く指定管理鳥獣捕獲等事業をはじめとする鳥獣捕獲等事業について、事前の設計から事後の評価を一貫して実現するスキームを構築し、試行することで適正な事業運営を実現することを目的とした。登録者の役割として事業の設計及び評価のスキーム案を構築するとともに、専門家と議論しながらより実践的で水平展開が可能な内容に仕上げ、文書（ガイドライン）にまとめることが期待された。

依頼を受けて実施した内容

事業の設計及び評価のスキーム案を構築するとともに、専門家と議論しながらより実践的で水平展開が可能な内容に仕上げ、文書（ガイドライン）にまとめた。

指定管理鳥獣捕獲等事業の設計に必要な調査デザインについては研究者と連携して構築し、それを試行した。具体的には、センサーカメラを多用して事業対象地とその周辺の二ホンジカ生息動向を把握し、捕獲手法、場所、時期の選定根拠を明確にした。

事業の成果

撮影結果（図2）から、以下のことを解釈した。

- ・ 捕獲手法：日中にシカが出没する傾向にあることから、銃による捕獲を手法として選定（わなによる捕獲と組み合わせて実施を計画）
- ・ 捕獲場所：撮影頻度が高いメッシュを捕獲場所として選定
- ・ 捕獲時期：現地踏査と撮影結果から人の出入りが少なく安全確保が可能な時期を選定

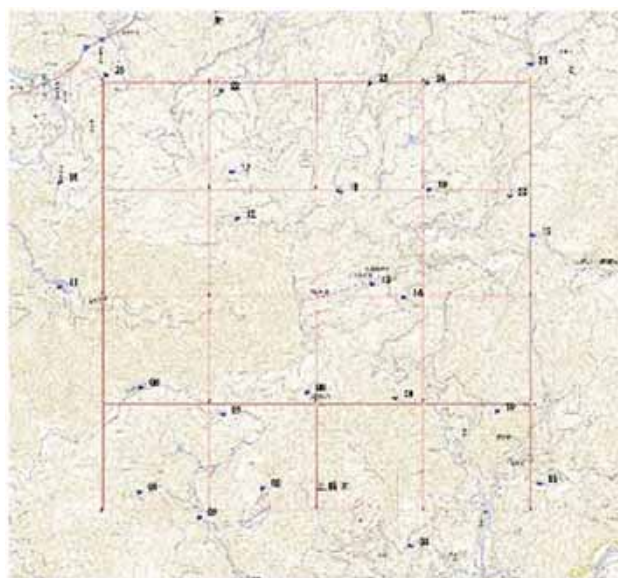


図1 事業対象地に設定したメッシュおよびカメラ位置

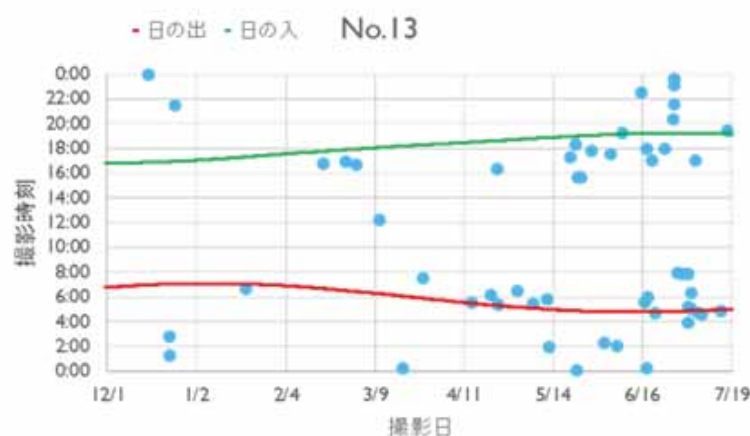


図2 カメラNo.13におけるニホンジカの撮影結果

日中に撮影される結果から銃による捕獲の選択可能性を検討

また、撮影結果に基づいた事業成果の評価手法を明らかにした。この評価手法では、捕獲対象地とその周辺のシカの生息動向を撮影結果から面的に評価する。捕獲の結果、捕獲実施場所の撮影頻度が低下し、一方で周辺における撮影頻度が変化しなければ、シカを捕獲圧により周囲に分散させずに密度低下を達成できたことが評価できる。さらにこの評価手法では、シカを密度低下させたい場合、どの程度の空間スケール・時間スケールで努力量（つまり捕獲作業）を投入すべきか、という検討データが得られることになる。

一連の成果は、ガイドラインにまとめ、関西広域連合構成団体で共有しつつ、この評価手法が果たして現地で適用可能かどうか、検証を進めている。